

# 平成 29 年度 田原市議会広報広聴特別委員会行政視察報告書

日 程 平成 30 年 2 月 1 日（木）～2 日（金）

- 視察先 1 「議会の広報広聴活動について」「広報広聴会議について」  
（京都府亀岡市）
- 2 「議会の広報広聴活動について」「広報広聴常任委員会について」  
（兵庫県宍粟市）

参加者 委員長 赤尾 昌昭 副委員長 小川 貴夫  
委員 河邊 正男 委員 平松 昭徳  
" 森下 田嘉治 " 古川 美栄  
" 中神 靖典 " 岡本 禎稔  
事務局 課長 鈴木 克広 主査 柴田 典子

## 1 「議会の広報広聴活動について」「広報広聴会議について」（京都府亀岡市）

平成 30 年 2 月 1 日（木） 13:15 ～ 15:00

会 場 亀岡市役所 全員協議会室

対応者 亀岡市議会 広報広聴会議 委員長 山本 由美子 氏  
亀岡市議会事務局 事務局長 片岡 清志 氏  
亀岡市議会事務局 次長 山内 偉正 氏  
亀岡市議会事務局 副課長 船越 文江 氏  
亀岡市議会事務局 議事調査係 係長 鈴木 氏

### （1）概 要

亀岡市は、京都府のほぼ中央、京都市の西隣に位置し、大阪府に接している。行政面積は 224.8k m<sup>2</sup>。周囲を山に囲まれた盆地で、市の中央部を「保津川下り」で知られる保津川が流れている。観光では、嵯峨野トロッコ列車も有名。

古くは丹波亀山城の城下町として栄えた。亀岡市役所近くにある丹波亀山城は、山陰と京を結ぶ交通の要であった丹波の攻略拠点として、後に初代城主となった明智光秀によって 1577 年頃に築城された。明智光秀ゆかりの地、亀岡市の観光マスコットは「明智かめまる」。以前は「亀山」という地名だったが、三重県亀山市との混同を避け、明治時代に「亀岡」に変えられた。

昭和 30 年の 16 町村の合併による市政施行以降、国道 9 号、山陰本線の沿線を中心に宅地開発が進み、人口は急増した。平成 23 年に策定された総合計画では定住人口 10 万人を目指しているが、人口はここ数年減少しており、現在は約 9 万人。

市議会議員は 24 人（現在は 23 人）。常任委員会は、総務文教（8 人、現在は 7 人）、環境厚生（8 人）、産業建設（7 人）の 3 委員会。

亀岡市役所から約 1 km のところにある JR 亀岡駅北側に、京都府初の球技専用スタ

ジアムを建設中（京都府事業）。平成30年1月に着工されたばかりで、平成31年度中の完成を目指している。当初建設予定だった場所には、国の天然記念物であり、亀岡市の魚でもある「アユモドキ」が生息していたことから、その保護のため、建設場所は当初の予定地より約300m移動した。その変更のため、平成27年度の着工予定は大幅に遅れた。その「アユモドキ」は、亀岡市役所のロビーにある水槽で展示されていた。議会では、現在も京都スタジアム（仮称）検討特別委員会を設置している。

## （2）参考になった点

### 【広報広聴会議】

- 広報広聴会議は、平成25年3月から設置。位置づけは委員会ではなく、会議規則に規定する「協議又は調整を行うための場」。弾力的に活動できるように名称を「会議」とした。
- 委員は9名以内で、メンバーは各常任委員会副委員長（3名）と各会派選出の議員となっている。
- 広報部会4人と広聴部会4人に分ける部会制にし、より専門的に活動できるようにしている。「会議」を分けて活動するので、少数精鋭的な活動となり、意思決定が早くできるのではないかと思われる。
- 議事録作成は、全体会議は会議録、広報部会と広聴部会は協議記録として要点筆記という形にしている。

### 【広報活動】

- 議会だよりの編集会議に印刷委託業者も同席している。同席は契約に明記されており、レイアウト等への専門的なアドバイスや市民目線での意見をもらっている。
- より多くの市民に議会だよりを手にとってもらうため、表紙の写真は、市民が登場するもの、発行月の季節にあったものを掲載している。
- 議会だよりに、「市民の声 本会議を傍聴して」を顔写真付きで取り上げ、市民の関心を高め、市民との距離感を縮める努力をしている。

### 【広聴活動】

- 議会基本条例は平成22年に制定。平成26年の改正時に、「議会の政策形成等に関して、市民との意見交換の場を多様に設ける」と明示された。
- 自治会版と各種団体版の「わがまちトーク」（団体を対象、テーマを決めた意見交換の場）を開催している。自治会版は、市内23自治会に開催希望を照会し、開催希望のある自治会のみを対象に自治会が選定するテーマに沿って意見交換を行う。各種団体版は、昨年、成人式実行委員会と「将来の亀岡像」について、若い世代の参加者5人とワークショップ形式で意見交換を行った。
- 議会報告会は、3月定例会（予算審議）後の4月と9月定例会（決算審議）後の10月に開催している。全議員が出席し、予算・決算の審議内容の報告とそれに対する質疑応答を基本としている。
- 議会報告会の流れは、①開会あいさつ（議長） ②予算（決算）特別委員長の報告 ③各常任委員長の報告 ④質疑応答 ⑤閉会あいさつ（副議長）。
- 議会報告会は、以前は田原市と同じように各自治会を回って開催していた。その

後、議会報告会に意見交換の場を設けて「議会報告&わがまちトーク」としてリニューアルし、現在の「わがまちトーク」は、議会報告会とは切り離して開催している。

- 「議会報告会・わがまちトーク」で頂いた意見・要望等の取扱い」フローチャートを定めている。
- 議員による情報発信として「フェイスブック」を、議会事務局に頼らず、議員自らが運営している。
- 高校生議会、子ども議会を開催した。

### (3) 所 感

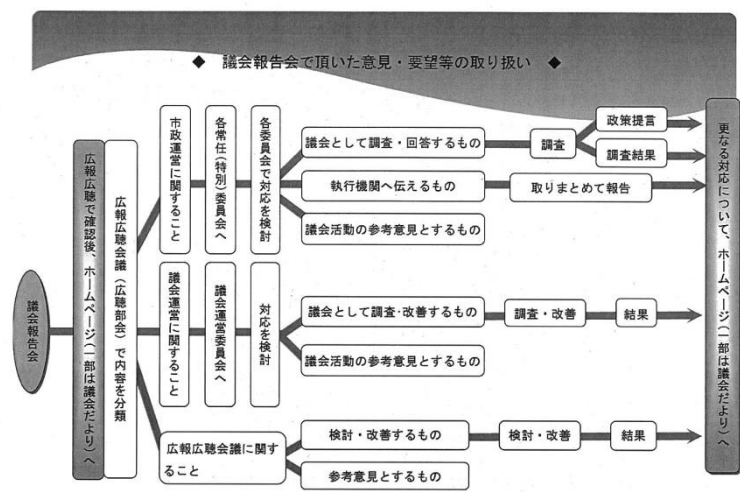
- **広報広聴会議**：議員自ら広報広聴活動を取り仕切っていこうとする姿勢が「会議」という名称に現れているように感じた。特別委員会という名称はその場限りの印象もあり、委員のモチベーション向上にもつながり難いと思われる。委員のモチベーション向上のためにも、常任委員会、若しくは特別委員会以外の名称での活動は有効だと思われる。
- **広報と広聴の2部会制**：広報広聴会議を2部会制にしているのは良い取組だと思う。広報も広聴もすべて一緒に取り組む場合、業務も多岐に渡り、かなりの仕事量になる。業務が軽減されれば、業務に向き合う深度が増し、専門性等が発揮され、業務の質の向上につながると思われる。田原市議会の広報広聴特別委員会でも2部会制を検討しても良いと思う。
- **常任委員会化**：常任委員会化にあたっては、まずは広聴活動の実績を積み上げ、さらに活動の幅を広げ、その成果を検証し、十分な議論をすることが重要と考える。議会報告会や意見交換会で出された意見が政策提言につながる事案となれば、成果として感じとれる。メリット・デメリット、運営方法、会議録作成等、検討すべきことは多くある。
- **議会だよりの編集**：編集会議に印刷業者が同席するのは大変参考になった。初期の編集や構成の意思疎通が非常にやりやすくなると思う。業者の意向やそれに伴う委託料の増加等の課題もあると思うが、検討したい。
- **議会基本条例**：田原市議会基本条例には、市民との関係で、請願・陳情等の審議の際の意見聴取や、説明責任としての報告会開催、政策形成のための有識者の知見活用等の記述はあるが、亀岡市のような「政策形成等に関して、市民との意見交換の場を多様に設ける」という一般的な市民からの意見聴取に係る記述はない。市民との意見交換会の規定を加える検討をすべきと考える。
- **議会報告会**：亀岡市議会の議会報告会は、予算や決算についての報告とそれに対する質疑のみ。市民から見ると、魅力がないのではないかと感じる。
- **議会報告会での意見への対応**：田原市議会では、議会報告会等での意見を政策提言につなげていく仕組みがない。亀岡市のフローチャートにあるように、意見を振り分け、常任委員会等で議論した結果をHPに掲載することは非常に大切だと感じた。一方で、すべての意見を振り分け、回答のとりまとめを行い、HPに掲載するのは、委員会や議会事務局の業務が膨大になる可能性があるが、それに対してどれ

ほどの人が閲覧し、理解してくれるのか疑問に感じるところもある。

- **わがまちトーク自治会版**：わがまちトーク自治会版は、開催希望のある自治会を対象としている。自治会とテーマや開催日時を調整することで、自治会の希望に沿った形となり、意見交換がしやすいのではないかと。また、各地域の課題を伺うことができるので、田原市議会でも取り組むべきだと思う。
- **わがまちトーク各種団体版**：市内の各種団体と意見交換をする場を設けるのは、良い取組だと感じた。
- **議会報告会等の参加者**：参加者を集めるため、どの議会も苦勞している。共通の課題である。
- **フェイスブック**：フェイスブックで情報を発信することで、議会を身近に感じてもらえるのであれば、導入を検討しても良いのではないかと。
- **高校生議会**：将来、地域に残って活躍する担い手になってもらうためにも、高校生が住み続けたいと思うまちづくり等、高校生の意見を聞く「高校生議会」、または議会という形にこだわらず、意見交換の場を設けるべきだと感じた。



亀岡市議会だより



議会報告会で頂いた意見・要望等の取り扱い(亀岡市)

## 2 「議会の広報広聴活動について」「広報広聴常任委員会について」（兵庫県宍粟市）

平成30年2月2日（金）10：00～11：50

会 場 宍粟市役所 503会議室

対応者 宍粟市議会 議長 実友 勉 氏

宍粟市議会 広報広聴常任委員会 委員長 山下 由美 氏

宍粟市議会 広報広聴常任委員会 副委員長 神吉 正男 氏

宍粟市議会事務局 局長 岡崎 悦也 氏

### （1）概 要

宍粟市は、兵庫県中西部に位置し、鳥取県と岡山県に接している。昭和29年から35年に行われた町村合併等により誕生した宍粟郡山崎町、一宮町、波賀町、千種町が平成17年に合併し、宍粟市となった。合併時の人口は約4万3千人だったが、現在は約3万9千人と徐々に減少している。

兵庫県下最高峰の氷ノ山を始めとする1,000m級の山々がそびえ、その山々を源とする県下を代表する一級河川揖保川や日本名水百選の千種川が流れている。市域は、南北方向約4.2Km、東西方向約3.2Km、面積約6,600k㎡と広く、兵庫県の7.8%を占め、その大部分が山地となっている。

交通の面では、京阪神と中国地方を結ぶ中国自動車道と、山陽と山陰を結ぶ国道29号が地域内で交差する西播磨内陸の交通の要衝となっている。市の中心部から阪神間や淡路島まで車で約2時間、但馬地域や丹波地域までも約2時間と、県内のどこに移動するのも2時間以内という地理的な特徴がある。

奈良時代に編纂された「播磨国風土記」によると、宍粟市内の庭田神社では、日本で初めて麴を使って酒を造ったと言われており、平成25年12月に「日本酒発祥の地宍粟市日本酒文化の普及の促進に関する条例」が議員提案により制定された。

市議会議員は16人。常任委員会は、総務経済（8人）、文教民生（7人）、予算決算（15人）、広報広聴（8人）の4委員会。

### （2）参考になった点

#### 【広報広聴常任委員会】

- 常任委員会化は、平成27年度に議会運営委員会と広報広聴特別委員会で調査。議会運営委員長からの発議により、平成28年4月に常任委員会となった。広報広聴活動の充実のため、大きな課題があったから検討されたのではない。
- 広報広聴委員会を常任委員会にするにあたって、活動の充実や調査の継続性のほか、おでかけ市議会等で出向く機会が多いことから、公務災害にも配慮した。
- 委員は、2つの常任委員会から選出。副議長も参加。申合せあり。
- 会議録は要点筆記、編集会議は会議録としての作成はしていない（音声は保管してある）。会議録作成は課題となっている。

#### 【広報活動】

- 本会議だけでなく、予算決算常任委員会の審査もケーブルテレビとインターネッ

トでライブ中継している。

- 政務活動費を用いた先進事例調査について、本会議を閉じた後の議場で報告会を実施（ケーブルテレビにてライブ中継）している。また、別の機会に、別の会議室で当局との意見交換会も実施している。
- 議会だよりの読者を増やす取組として、市内で活躍している地域団体等を紹介するページを新設した。

#### 【広聴活動】

- **お出かけ市議会**: 常任委員会の調査活動として位置づけられており、広聴活動をうまく利用していると感じた。意見交換会を親しみやすい名称としたところも良い。お出かけ市議会での意見交換した内容と後日委員会で協議した「委員会の考え方」を議員協議会で確認後、相手方へ通知、その後HPで公表している。
- **市民懇談会(議会報告会)**: 対象団体、開催日時、テーマは広報広聴常任委員会が調整・決定する。当初の議会報告会での行き詰まりから、議会報告と少人数のワークショップ形式で実施するように変更し、一部の声の大きい方の意見に終始することなく、参加者の意見が広く聞けるように工夫されたところは大変良いと思う。また、寄せられた意見は常任委員会ごとに仕分けし、委員会で回答を協議した後、議会だよりに抜粋を掲載、HPで全文を公表している。
- **議会広報モニター**: モニターの約半数が女性であることから、普段なかなか聞くことのできない女性の意見を聞ける。モニターの負担を減らすため、会議は年2回で、ほかはメールでやりとりする工夫がされている。市民の声を聞く姿勢や実行力をアピールする良い取組だと思う。今年度開催された会議では、議会だよりに関する意見があり、次回の議会だよりの中身の充実に反映された。

#### 【その他】

- **政策研究会**: 政策提言のための仕組みとして、5人以上の議員で自ら調査研究できる政策研究会を正式な議会活動として位置づけている。

### (3) 所 感

- **常任委員会化**: 常任委員会化は委員のモチベーションの保持・向上や委員会の充実に有効と考える。宍粟市では事務局長のリードが大変強かったように感じた。予算決算委員会のように、これまで田原市が常任委員会化した様子を見ると、リーダーの判断によるところも大きいように思われる。ただし、その判断とは別に委員のやる気や責任感の醸成は別の次元で考えるべき。宍粟市のように予算決算委員会のテレビ中継や議場での先進事例調査報告（テレビ中継あり）や会派を横断する政策研究会を議会活動として位置づけるなど、議会全体の底上げと議員の資質向上が図られれば、自ずと広報広聴は常任委員会化されるのではないかと。
- **常任委員会化**: 広報広聴活動の充実のために常任委員会にしたとのことだったが、必ずしも常任委員会にしたから広報広聴活動が充実できた訳ではないように感じた。常任委員会としての運営の難しさや大変さがあるような感じがした。常任委員会化に向けては、根本的な議論を深めていく必要がある。まずは、活動実績を積み上げて、形を作り、土台を固めること。常任委員会化したら、どのような影響があるのか

か、事務局の負担はどうか等、十分に把握しておく必要もある。

- **おでかけ市議会**：テーマを持って議会から出向く姿勢は大変良いと思う。常任委員会がテーマを選定するところも良い。平成29年8月に田原市議会が開催した意見交換会は概ね好評だったと思う。今後も継続・定着を図っていくべきだと思う
- **ワークショップ形式**：意見交換会の手法として、ワークショップ形式はとても参考になる。口頭で意見をうまく伝えられない方でもメモ程度に意見を整理することで伝えられると思う。多様な意見が出された場合に、意見の整理がしやすくなり、意見交換会の充実につながると思う。田原市議会でも取り入れるべきだと思う。
- **議会モニター**：議会に対する客観的意見をいただく仕組みとして、広報モニターに限らず、議会全般に関するモニターを配置するのは良いと思う。意見交換会でのワークショップ等のテーマとして何年かに一度実施する等定期的に行うのも良いのではないかな。
- **政策研究会**：政策研究会の仕組みは田原市でもぜひとも取り入れたいと思う。



### 議会広報モニターの見によりレイアウト変更された議会だよりの表紙



中央市議会だよりNo.49



中央市議会だよりNo.50